# NPT再検討会議　生協代表団　活動報告

平和の願いを込めた折り鶴

## ９グループ
## コープさが　干潟　由美子

### ４月２３日（木）　壮行会

NPT再検討会議の代表団派遣のため、コープさがで壮行会が行われました。

組合員のみなさんに折ってもらった折り鶴と平和のメッセージの入った法被を受け取り、自分に与えられた責任の重さを感じました。

一緒に行動する9グループのメンバー

### ４月２４日（金）　ニューヨークに向けて出発

被団協代表団４８人、生協連代表団４５生協９１人、１３９人の合同代表団は全世界に向けて、被爆の実相と核兵器廃絶の願いを伝えるために出発しました。

### ４月２４（金）　ニューヨークに無事到着（現地時間）

１３時間のフライトの疲れもなく、無事に現地入り。明日から、いよいよ活動が始まります。

今回、初めて参加された眞田さん。（前列右端）これまでNYに来ることができなかったこと、これが自分にとって最後になるかもしれないという想い。「生き残った負い目だからこそ伝えたいのだ」

### ４月２５日（土）　合同結団式（現地時間）

被団協の谷口団長、生協団の本田団長のあいさつで始まりました。

今回の再検討会議への思いを、被爆者の方々からお聞きし、核兵器廃絶への具体的な道筋が示されることを願いました。

「非核特使」の委嘱状を手渡されて

## 4月26日（日） NGO行動集会と平和パレード（現地時間）

ユニオンスクエアーで開かれたNGO共同行動集会では、各国のスピーカーに続き、被団協の中村雄子さんが「ノーモアヒロシマ」「ノーモアナガサキ」「ノーモアヒバクシャ」を訴えました。
会場を埋め尽くした人々。
これだけの人が同じ思いを持って行動するとき、何かを動かせる力が働くのではないかと感じました。

日本被団協　中村　雄子さん

広島　松井市長も登壇し「核兵器廃絶に向けて、平和のうねりを作り出していこう」と訴えました。

生協の代表団も被爆者の方々と一緒に3番街を国連近くのダグ・ハマーショルド広場まで歩きました。

よどがわ市民生協の横断幕を一緒に持って

各生協で準備してきた横断幕を持ち、折り鶴などを沿道の人たちに配りながら、核兵器廃絶を訴えました。
ただ、このパレードをニューヨークの人たちはどういう思いで見ているのか。
被爆国の日本だからこそ伝えられることがあるはず。
ここに参加できなかった人たちの想いと一緒に、これから何ができるかを考えながら歩きました。

国連軍縮担当上級代表アンゲラ・ケイン氏に核兵器廃絶の署名を渡す、松井市長

## 4月27日（月） 国連ロビー証言活動（現地時間）

国連本部

国連本部では原爆展が始まりました。
北海道在住の被爆者の「北海道被爆者証言集」を来場者に配布しながら、原爆展へのお誘いの声掛けをしました。
この証言集は「眞田さんがNYに行くのなら私たちも証言を書きます」といって作られたものなのだということです。
その証言集を受け取った方々がパネル展へと足を運んでくれたり、若い方が足を止めてパネルを見入る姿を見て、わたしたちの活動の意義を改めて感じました。

折り鶴を一緒に折って
国際交流

「焼き場に立つ少年」のパネルの
前で証言をする　眞田保さん

## 4月28日（火） ホワイトプレインズ高校（現地時間）

歴史の授業の一環として行われた証言活動。皆、熱心に話を聞いてくれ、被爆者に対して、温かい励ましや感謝の言葉もいただきました。
「教科書だけでは学べない、生の声を聞けて良かった」「感激した、世界平和のために頑張りたい」という意見がありました。
また、「暴力や戦争に若い世代は何ができるか？」という質問に対しては、児玉さんから「人の立場になって考えられるようになること、平和は自分たちが求めないとやってきません」と話されました。
証言終了後は組合員さんに折ってもらった折り鶴を渡すことができました。
折り鶴に込めた平和への願いが生徒さんたちに伝わることを願っています。

## JAGLとJAJAのジョイントセッションでの証言活動

日系人の3団体合同の会合に招かれ、
証言活動を行いました。

50人程の方が参加されました。
質疑応答では「原爆と原発の関係」「日本での原爆についての教育は？」などが出されました。
「日本は地震国。原発はなくしていかなければならない。福島第一原発では今も汚染水が海に流され続けている。水は世界中を流れていく。これは日本だけではなく世界の問題。原発は絶対NO!の気持ちを持っている」などと答えられていました。
終了後も多くの参加者に囲まれ、行列ができるほど関心が高いことが伺えました。

## ４月２９日（水） 国連ロビー原爆展（現地時間）

長崎　田上市長と記念写真

児玉さん、眞田さんが原爆展で証言活動をしました。
多くの見学者に囲まれ、お二人の証言に熱心に耳を傾けられる姿が見られました。
今回は被爆者の話を聞きながら質問をすることができ、その輪の中に次々と参加者が増えていくという状況でした。
若い学生の姿も多く、証言活動が終わって、被爆者から「若い人が多かったことがうれしかった。彼らが何かを変えてくれるのではないか」その言葉に自分の役割が何かを再度確認できたように思います。

## マレーシア国連代表部への要請(現地時間）

日本被団協・日本生協連・原水協合同でマレーシア国連代表部を訪問しました。
児玉さんより、要請の発言を行い要請文を渡しました。
児玉さんの「先がなくなってきました。長くは生きられません。命絶たれても、魂が、核兵器廃絶が叶わなければ、眠ることはできないのです」と言われた言葉が脳裏に焼き付いています。
マレーシア国連代表代理からは「今回のNPT再検討会議では成果を感じるとは思っていない。しかし、核保有国に圧力をかけることが大切です。核の傘はNPTの精神に欠けることなのでこれからも支援をしていきたい」との言葉をいただきました。
核兵器廃絶のために、各国代表への要請活動も大事な行動のひとつであり、国の考え方を直接聞くことができる大切な場でもあると思いました。

## 被団協と生協団の懇親会(現地時間）

各グループの代表から代表団に参加しての発表がありました。
それぞれの生協がひとつのグループとして行動を共にする中で、たくさんのことを学ぶ機会となりました。
整理できないほどの熱い思いを持ち帰り、平和について組合員や職員と一緒に考え、行動していきたいと思いました。

# NPT 再検討会議　生協代表団　感想文

**9グループ　コープさが　　干潟　由美子**

NPT 再検討会議の生協代表団のひとりとして、2015 年コープさがから初めて参加しました。戦後 70 年を迎える年に NPT 再検討会議が開かれ、平和についてあらためて自分自身に問うよい機会になったと感じています。

核兵器廃絶に向けて被爆者の方々と一緒に行動した 5 日間。戦争を知らない世代のわたしが被爆者の証言から得た真実は、いのち、からだ、こころ、くらしを破壊し、今もなお被爆者を苦しめているということでした。

被ばくの証言は生かされた者の役目と言われていましたが、わたしたちはその真実を曲げることなく伝えていく役割を任されたのだと思います。

高校での証言活動で、学生から「暴力と戦争」に若い世代は何ができるか？という質問がありました。争いをやめること、人の立場になって考えられるようになること。平和は待っていてもやってこない。自分たちが求めない限りやってこない。という被爆者の答えが示すように、ひとりひとりが小さな行動を起こすことが平和への一歩につながっていくのだと思いました。

被爆者の方と接する中でいつも感じたやさしさや思いやり、強い信念と勇気ある行動は忘れないと思います。そして、ニューヨークに組合員の思いと共に送り出してくれた生協のみなさんに感謝したいと思います。

そのことに応えられるよう、まずは伝えることから始め、平和について多くの組合員さんと語り、行動していくことができるよう新たな一歩を踏み出したいと思います。